



歴史

資料の読み取りから評価する 「主体的に学習に取り組む態度」 —「タイムトラベル⑤」を活用した鎌倉時代の学習—

神奈川県 横浜市立中川中学校 主幹教諭 相磯 達夫

1 はじめに

帝国書院の令和3年度版『社会科 中学校の歴史』（以下、教科書）は、各時代を大観する上で大いに活用できる「タイムトラベル」が特色としてある。本誌にも数多くの「タイムトラベル」を活用した実践例が掲載されてきたが、本稿も「タイムトラベル」を活用した一例を紹介したい。その前に、二点確認しておきたい。

一点目は「タイムトラベル」の時代考証が正確であることだ。時代のイメージをつけさせるだけの活用ではもったいないほど、細部までこだわって描かれている。授業者がどこまで「タイムトラベル」の細部までこだわるかで、生徒の気づきを取り上げ、評価につなげられるかが変わる。「タイムトラベル」を通して授業者が「教材との対話」をすることが重要である。

二点目は生徒と授業者の歴史事象に対する認識の差や着眼点の違いを、いかに肯定的に受け止められるかという点である。授業者の予想や想定を超える生徒の気づきを授業者も気づくことで、「タイムトラベル」の読み取りは深化する。授業は生徒とともに作っていくという「授業者と生徒の対話」が大切である。

以上の二点を踏まえた上で「タイムトラベル」を活用すると、各時代の比較や、その時代の大観が多角的になり、新学習指導要領下で悩みの多い「主体的に学習に取り組む態度」の評価にも見通しが持てるようになる。今回は教科書の「タイムトラベル⑤ 鎌倉時代を眺めてみよう」（p.58～59）を用いた実践を通して、生徒の反応や評価について紹介したい。

2 「タイムトラベル」の有用性

国立教育政策研究所教育課程研究センター編『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』（令和2年3月）では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について「各教科等の『主体的に学習に取り組む態度』に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。」（p.9～10）とあり、

「① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という二つの側面を評価することが求められる」（p.10）として次のような評価のイメージをあげている。

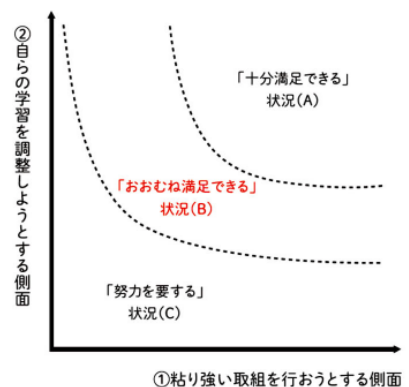


図1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ（部分） 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』 令和2年（出典：国立教育政策研究所ホームページ（<https://www.nier.go.jp/>））

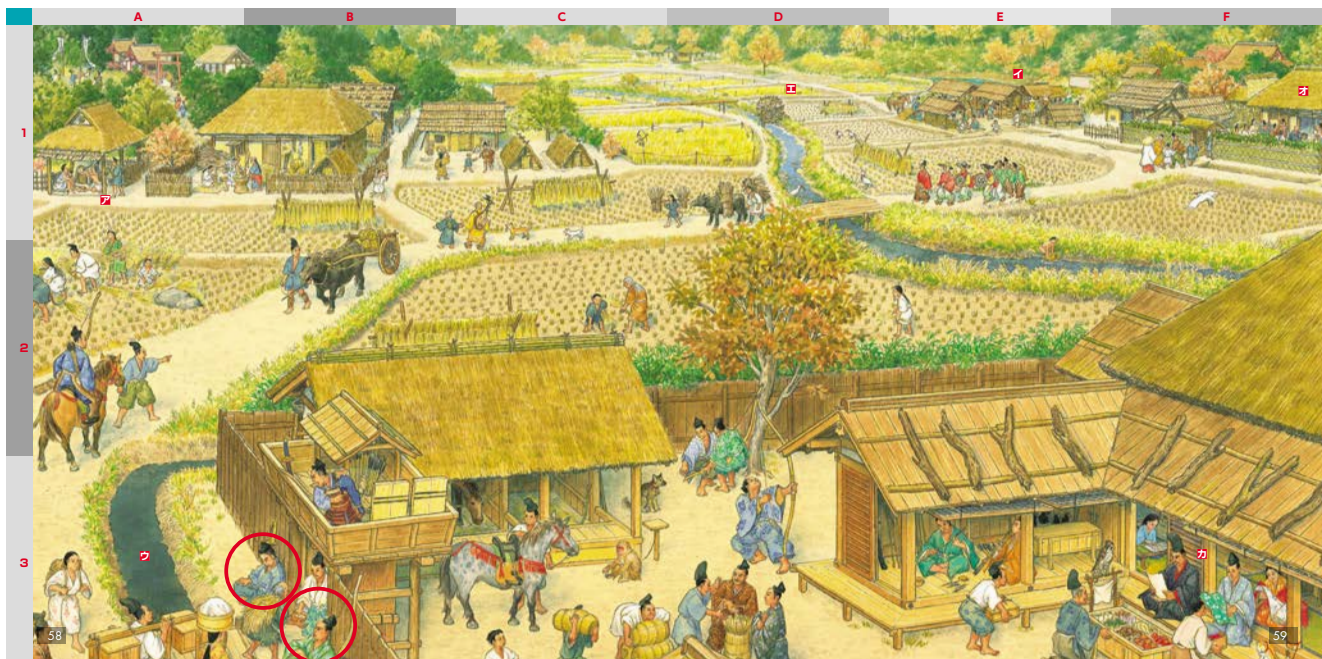


図2 「社会科 中学生の歴史」 p.58～59「タイムトラベル⑤ 鎌倉時代を眺めてみよう（13～14世紀ごろのある場面）」

さらに、「1単位時間の授業ごとに考えるのではなく、単元や題材などの一定程度のまとまりごとに検討されるべきであることが示されたもの」(p.14 脚注)と学習指導要領の記載を補完している。

具体的に考えれば、鎌倉時代の学習を一単元と捉え、予想や見通しを立てて学習に入り、授業を通して新しく得た知識や考え方を踏まえて最後に自分が立てた予想や見通しを振り返る。その変容を見とることが「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基本となる。

「予想を立てて学習し振り返る」という一連の流れの中で、「タイムトラベル」は単元の導入や見通しを持たせたり、単元の最後の振り返りや時代を大観したりする際に有用で、学習を通した生徒の変容を見取る教材としても活用できる。「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際、「タイムトラベル」は教材として適しているといえる。

3 「タイムトラベル」の読み取り

二つの主発問

主発問の前に、「武士でイメージすること、武士で知っている人物は？」と武士のイメージを聞く。小学校でも人物を中心に歴史を学習しており、多少なりとも武士のイメージがある。

生徒のイメージを把握することも狙いの一つである。ぼんやりしたイメージが学習を通して、具体化したりイメージとは違う点を振り返ったりしていれば、生徒の認識は変容したといえる。

今回、生徒は次のようなことをイメージしていた。

戦っている 刀を持ってすごく強い 手本となる人
 武将の命令を聞く 天皇と仲が悪い 誇り高い
 源氏や平氏 位の高い人を守る 土地を巡って争う
 戦いに出て指揮を執る 徳川家康 など

ここでは武士に対する生徒の認識をそのままにして、

○主発問①

Q.「タイムトラベル」の中に、何人の武士が描かれているだろうか？

と問い、「タイムトラベル」に武士と思う人物に丸を付けさせた。ワークシート（次頁図3）にも示したように、人数だけではなく理由も記入させる。さて、読者の先生方は何人の武士が描かれていると読み取るだろうか。生徒が答えた人数は「2名（最少）～33名（最大）」である。ほぼ全員に共通しているのは図2中に○丸をつけた二人である。それ以外にD3に描かれている弓を引く人や、A2に描かれている馬に乗っている人である。こうした人物を武士と判断した理由の多くは、弓矢や刀などの武器を持っているから、というものである。武士の人数を多

社会科 歴史 第2章中世 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり
教科書p.58～59 (ノートに貼りましょう)

1年()組()番 名前()

鎌倉時代を眺めてみよう

～ タイムトラベルの読み取り ～

○「タイムトラベル」には、その時代を学習する上でポイントになる様々な情報が描かれています！
○細かいところまでよく見て、鎌倉時代の様子を読み取ろう！

1. 読み取りチャレンジ①

○「武士」とは…？ 武士のイメージや武士として思い出す人物を書こう

○タイムトラベルから読み取ろう
Q 武士は何人描かれている？
描かれている人数は… 人

○理由（注目点など）

○理由

※意見を書いて 人と考える！

2. 読み取りチャレンジ②

Q 鎌倉時代の特徴を読み取ってみよう (1回目)

3. 読み取りチャレンジ③ (別の日にやります)

Q 新しく読み取ったり気づいたりした情報を加えよう (2回目)

自己評価 1回目と2回目で読み取りが深まった？…… (A・B・Cで評価)

○今までの学習を振り返って

評価

図3 ワークシート

士へと生徒の見方が変容してきた。

○主発問②

Q. 「タイムトラベル」から
鎌倉時代の特徴を読み
取ってみよう。

武士を探す読み取りをし
てから、鎌倉時代の特徴を
読み取らせる。その際、平
安時代の「タイムトラベル」
(教科書p.48～49)と比較
させたり、「人々の様子(ど
んなことをしている人々が
描かれているか)や、屋敷・

く答えた生徒は、A1やE1、F1に描かれた
人物からも武士を類推していた。

興味深かった理由に「武器を持っていたり馬
に乗っていたりする人の帽子と同じような帽子
を被っている人が武士だと考えた。」と、折烏
帽子に注目した生徒がいたことである。折烏帽
子に注目すると、F1にも僧侶の周りに武士と
見える人物がいて、気づかなかった生徒も納得
していた。班にして意見交換をさせると盛り上
がり、武士とは何かについて考えるきっかけに
なる。生徒が疑問を持つようになれば、「武士
とは、どのような人々で何をしたのか学習しよ
う」と、次の時間につなげることができる。

多くの生徒が武士かど
うか悩み、武士と判断し
なかったのが右の図の人
物である。烏帽子の形が
違うことや着ているもの
から貴族と考える生徒が
多かった。しかし、授業
(教科書p.64)で守護・



図4 『社会科 中学生の
歴史』p.59部分

地頭の役割を確認し、地
頭が荘園や公領に置かれ年貢の取り立てを行っ
ていたことを学習すると、図の人物は地頭で、
彼の前にあるのは年貢であると振り返ることが
できた。武士＝戦う人という単純なイメージか
ら、年貢を取り立てたり政治を行ったりする武

建物の造り方、服装などに注目しよう」と板書
したりしながら読み取らせた。単に特徴を読み
取ろうという発問では、何を見てよいのかわか
らない生徒がいるので、ある程度視点を定める
ことで比較や読み取りが容易になる。屋敷が柵
や堀で囲まれている点や質素になった点を読み
取る生徒の他に、屋敷の柱が円柱から角柱に
なったという違いや、平安時代はどちらかとい
うと動きにくい服装だが鎌倉時代は動きやすい
服装に変わったという服装の変化に気づいた生
徒もいた。鎌倉時代の屋敷には動物が多い点や、
平安時代も鎌倉時代も猫が柱に繋がれていると
いう点に気づいた生徒、平安時代に比べ鎌倉時
代の屋敷では女性がほとんど描かれず活躍する
場がなくなったのか？と疑問を出した生徒がい
るなど、想定を超える読み取りが多く出てくる。

4 授業の途中で 「タイムトラベル」に戻ってみる

地頭の学習以降も「タイムトラベル」に戻っ
て確認をした。鎌倉新仏教の学習(教科書p.68
～69)をして法然や親鸞などが人々に布教を
したことを確認した後に「タイムトラベル」に
戻り、布教の様子が描かれている場所を探そう
と促すと、生徒たちは早々にF1に描かれてい
ることをを見つける(タイムトラベルも教科書
p.68の資料活用と同じように活用できる)。ま

図5 「タイムトラベル」を使った班学習のようす

た、『平家物語』が楽器を使って語られていたことを学習し「タイムトラベル」に戻ると、C1に描かれた琵琶法師を探し出す。

最初の読み取りですべての情報を探せなくても、学習を通して「タイムトラベル」に戻ることによって生徒の意識は高くなり、「こんなところに描かれている！」と発見時の喜びも増える。

「タイムトラベル」が様々な資料や教科書の記述と関連していることを教師側が理解しておくと、生徒の関心や意識を高める一助になる。

5 「タイムトラベル」を活用した評価

「タイムトラベル」の読み取りを繰り返し取り入れることで、生徒は資料を細かく見て多くの情報を得ようと努力する。自分が気づかなかった点に気づいた仲間の意見を聞き、教科書中にヒントが載っていることを理解すると、三度目や四度目の読み取りの際に今までの読み取りを生かそうとする。どう粘り強く読み取ろうとしているか、どのように調整しながら読み取っているか、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準に関わる生徒の見取りが可能となる。ワークシートにも示したように、一回目と二回目ではどのくらい読み取りが深まったのか自己評価させてもよい。生徒の自己評価も確認しながら最後に振り返りを書かせ、評価につなげていく。振り返りの内容は、「思考力・判断力・表現力」の観点からも評価が可能である。

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

1 単位時間では評価が難しいので、次の点に意識して評価する。

①最初の読み取りと振り返った際の気づき

②前の時代との比較やこれから読み取る際にどのような点に注目しているか

①については学習内容を踏まえて読み取りや気づきが増えていること、②については前の時代（ここでは平安時代）と違っている点に気づけていることをB評価とし、より深く読み取っていたり、次の時代を学習する際に注意する点が書かれていたりすればA評価とする。また、ここで評価するのではなく、次の室町時代のタイムトラベルの読み取りまで含めて、読み取りが深まっているかを評価規準にしてもよい。

(2) 「思考力・判断力・表現力」の評価

「タイムトラベル」の読み取りから評価できる。前述した平安時代との比較や建物などの特徴に着目して記述していればB評価とし、さらに多くの特徴を記述していればA評価とする。建物や人々の様子に限定されていても、理由や予想が書かれていればA評価とする。また、単元の最後にもう一度「タイムトラベル」から鎌倉時代の特徴を読み取らせ、最初の読み取りと比べどの程度深まったのかで評価してもよい。さらに、単元の振り返りとして、学習した内容を生かしながらもう一度「タイムトラベル」を読み取り、自分なりに鎌倉時代をまとめさせることでも評価ができる。

6 おわりに

新しい学習指導要領の完全実施に伴い、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について教員の視点が行きがちだが、教員が教材と対話することで、生徒に何を理解させたいか、何に気づき、どんなことを考えさせたいかが顕在化してくる。日々多忙な中で様々な資料や教材と対話するのは難しいが、「タイムトラベル」は複数の資料や情報をコンパクトに収めた教材であり、授業展開や学習評価にも活用できる。

今回紹介した「タイムトラベル」を活用した実践例が、生徒と授業者双方の深い学びに繋がれば幸いである。

帝国書院のウェブサイトにも、
本授業研究のワークシートを掲載いたします。